

コマツナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	白 さ び 病	根 こ ぶ 病	立 枯 病 (リ ゾ ク ト ニ ア 菌)	リ ゾ ク ト ニ ア 病	白 斑 病	ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	コ ナ ガ シ	ア オ ム シ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ シ	ヨ ウ モ ン ヨ ト ウ シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ シ	ネ キ リ ム シ 類	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	ハ モ グ リ バ エ 類	ケ ク サイ ダ ニ	そ の 他
アミスター20FL	11		7	2		◎			◎														
フロンスайд粉	29		*a	1			◎◎																
リゾレックス水	14		14	2				◎															
リゾレックス粉	14		*a	1				◎															
ユニフォーム粒	4・11		*a	1		◎																	
スラゴ粒	UN		*d	-																			ナ
オルトラン粒	1B		*a	1						◎								◎					
ジェイエース粒	1B		*a	1						◎													
ダイアジノン粒5	1B		*b	1															◎		◎		
			*e																◎				
			*c																	◎			
アディオソ乳	3A		1	3								◎										◎	
アクタラ顆溶	4A		3	2						◎													
アクタラ粒5	4A		*b	1						◎													
ダントツ溶	4A		3	3						◎													
ダントツ粒	4A		*b	1						◎													
ディアナSC	5		1	2							◎	◎	◎		◎	◎		◎		◎		◎	
アフーム乳	6		3	2								◎											
コテツFL	13	劇	3	1								◎	◎										◎
ヨーバルFL	28		1	2								◎											
			*f	1	☆							◎											
ファインセーブFL	34	劇	7	2							◎	◎											
ブレオFL	UN		1	2								◎		◎		◎							
アフームエクセラ顆水	6・15		3	2								◎											

ナ:「ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等」での登録。

*a:播種前 *b:播種時 *c:出芽時 *d:発生時 *e:播種時又は定植時

*f:定植前日～定植当日

☆:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。

コマツナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発消生長		1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病 害	露地												
	苗立枯病												
	白さび病												
	炭疽病												
施 設													
	苗立枯病												
	白さび病												
	炭疽病												
虫 害	コナガ												
	キスジノミハムシ												
	アブラムシ類												
	ハモグリバエ類												

作型 — ; 栽培期 — ; 収穫期
 病害虫発消生長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
白さび病	播種前	・ 次の薬剤を全面土壌混和する。 ユニフォーム粒剤 9kg/10a	露地栽培で発生する。5～7月と10～12月の雨期に発生が多い。 *非結球アブラナ科葉菜類での登録
	生育期	1. 雨よけ栽培を行う。 2. 次の薬剤のいずれかを発生初期に散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 ピシロックフロアブル* 1000倍 ライメイフロアブル* 2000～4000倍 ランマンフロアブル* 2000倍	
	収穫後	・ 収穫後の残渣は丁寧に除去し、畑にすぎこまない。	
炭疽病	生育期	1. 雨よけ栽培を行う。 2. 発病株はただちに除く。 3. 発病畑周辺の除草を行う。 4. 発生を見たら次の薬剤を散布する。 スクレアフロアブル* 2000倍 ベンレート水和剤* 4000倍	露地栽培で発生する。6～10月に雨が続きと多発する。潜伏期間は3～4日でまん延が早い。圃場衛生等、予防に重点をおく。 *非結球アブラナ科葉菜類での登録

コマツナ

コマツナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
モザイク病(縮葉症状)	播種期 ～生育期	・播種後収穫1週間前まで寒冷紗を被覆する。	寒冷紗被覆は白さび病が発生しやすくなるので注意すること(ハクサイの項参照)。
黒腐病	生育期	・雨よけ栽培にすると被害は少なくなる。	6～7月の梅雨期と9月の秋雨期に発生が多く、収穫間近に急にまん延する。
萎黄病	播種前	1. 土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。 ガスタード微粒剤 20～30kg/10a 2. 発病が少ない品種を選ぶ。	7～8月に発生が多い。病原菌はダイコン、カラシナ以外の多くのアブラナ科野菜を侵す。
立枯病(リゾクトニア菌)	播種前	・高畝にするなど、圃場の排水を良好にする。 ・次の薬剤を全面土壌混和する。 フロンサイド粉剤 30kg/10a	主に11～2月頃の低温期に発生する。
リゾクトニア病	播種前	・次の薬剤を全面土壌混和する。 リゾレックス粉剤 20～40kg/10a	
	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 リゾレックス水和剤 1000倍	
アブラムシ類	播種時	1. パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培ではサイドネットや入り口に防虫網を設置する。 2. 次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 アクタラ粒剤5 (作条) 6kg/10a アルバリン粒剤* (播溝) 6kg/10a スタークル粒剤* (播溝) 6kg/10a	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 2000倍 アグロスリン乳剤* 2000倍 ウララDF* 4000倍 モスピラン顆粒水溶剤* 4000倍	

コマツナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハモグリバエ類	播種時 ・生育期	1. パスライトやパオパオ等0.8mm以下目合いの資材による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培ではサイドネットや入り口に防虫網を設置する。 2. 発生を見たら次の薬剤を散布する。 スピノエース顆粒水和剤* 2500～5000倍	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)	生育期	1. パスライトやパオパオ等の被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スピノエース顆粒水和剤*1 2500～5000倍 チューンアップ顆粒水和剤*2 2000～3000倍	夏が高温乾燥のときに多発する傾向があり、8月上旬以降急増加する。 生育初期に加害されると芯止まりとなる。 *1非結球アブラナ科葉菜類での登録 *2野菜類での登録
コナガ	播種時 ・生育期	1. パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培ではサイドネットや入り口に防虫網を設置する。 2. コナガコンプラス◇のいずれかの剤を、作物の上部に設置する。 ツインチューブ製剤 100～120本/10 a ロープ状製剤 20～40m/10 a 3. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アニキ乳剤*1 1000～2000倍 エスマルクDF*2 1000～2000倍 コテツフロアブル 2000倍 ディアナSC 2500～5000倍 プレオフロアブル 1000倍 プレバソンフロアブル5*1 マツチ乳剤*1 2000倍	◇成虫の交尾阻害が目的。使用にあたっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。 *1非結球アブラナ科葉菜類での登録 *2野菜類での登録
アオムシ	播種時	・パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培ではサイドネットや入り口に防虫網を設置する。	

コマツナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
(アオムシ)	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 コテツフロアブル 2000倍 エスマルクDF*1 1000～2000倍 スピノエース顆粒水和剤*2 2500～5000倍 マッチ乳剤*2 2000倍	*1野菜類での登録 *2非結球アブラナ科葉菜類での登録
ヨトウムシ	播種時	・パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培ではサイドネットや入り口に防虫網を設置する。	5～6月と9～10月の2回発生する。
	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第捕殺する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エコマスターBT*1 1000倍 エスマルクDF*1 1000倍 スピノエース顆粒水和剤*2、# 2500～5000倍	*1野菜類での登録 *2非結球アブラナ科葉菜類での登録 # ヨトウムシ類での登録
キスジノミハムシ	播種時	1. パスライトやパオパオ等0.8mm以下の目合いの資材を使った被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培ではサイドネットや入り口に防虫網を設置する。 2. 次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 アルバリン粒剤* (播溝) 6kg/10a スタークル粒剤* (播溝) 6kg/10a ダイアジノン粒剤5 (全面) 6kg/10a フォース粒剤* (全面) 4kg/10a	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アクセルフロアブル* 1000倍 アニキ乳剤* 1000～2000倍 アルバリン顆粒水溶剤* 2000倍 スタークル顆粒水溶剤* 2000倍	
その他の病害虫		アヤトビムシ、カブラハバチ、クローバーハダニ、ケナガコナダニ、ヤサイゾウムシ	